

熊本地震の教訓 ～迷わず外へ、「空振り」を恐れず命を守ろう～

今年7月末に起きた熊本地震は記憶に新しいところですが、今から10年前の2016年4月にも熊本県を中心に最大震度7を2度観測する大地震がありました。強い揺れが繰り返し襲い、建物の倒壊や土砂災害など、各地に大きな被害をもたらしました。

地震はいつ、どこで発生するかわかりません。過去の災害から学び、日頃から備えておくことが、命を守ることにつながります。10年前の熊本地震を教訓に、皆さんのよくある質問にお答えします。

地域防災支援員の

＼ 今日からやろう /

防災力UP



むらやま りゅういち
村山 隆一

1964年3月生まれ、白糠町出身。1982年5月、釧路西部消防組合消防署に消防士として奉職。2022年4月、釧路市西消防署白糠支署長に就任。心理相談員や産業カウンセラーなどの資格を所有。好きな食べ物はカレーライス。

問 1回目の大きな揺れに耐えた家なら、そのまま中にいても安全でしょうか？

答 2016年の熊本地震では、新耐震基準の家でも連続する激震でダメージが蓄積し、倒壊するケースが相次ぎました。家屋に取り残されて脱出に時間がかかると、白糠町では約30分で到達すると言われていた津波から逃げ遅れるという致命的なリスクに直結します。

1度目の揺れでは
なんともなかったのに、



問 揺れが収まるまで、じっと家中で様子を見ますか？

答 「緊急地震速報」や大きな揺れを感じた瞬間が、避難の合図です。一瞬の迷いが生死を分けます。玄関の「非常持ち出し袋」をサッと手に取り、揺れが小さいうちにすぐ屋外へ逃げる心のスイッチを入れておきましょう。

すぐ避難！



問 逃げたのに津波が来なかったら、恥ずかしいですか？

答 津波が来なければ「無事でよかった！」と笑い合えば十分です。その避難は無駄な「空振り」ではなく、命を守る「素振り（練習）」。実際に動くことで「足元の滑りやすさ」などの気づきが得られ、次の備えに生かれます。

被害はなかったけど、
経路や足場を確認できた



空振りだけど
いい実践練習！

今夜、家族で次の2点を確認しましょう！

- ①「緊急地震速報」が鳴ったら、まず何を持ってどこへ出るか
- ②非常持ち出し袋は玄関のすぐ手に取れる場所にあるか

避難経路はこっこの
ほうが早いかな？

リュックの中の物が
古くなっていたね



最初から完璧じゃなくていい。

「迷わず動く」が命を守る

完璧な避難なんて最初からできません。大切なのは、空振りを恐れずに動くこと。「揺れたら即避難」を体と心に染み込ませて、いざというときに大切な命をみんなを守り抜きましょう。

津波避難アンケート
<https://logoform.jp/form/imyj/1541490>



防災マップWeb版

<https://www.town.shiranuka.lg.jp/kurashi/bousai>

